

- 長男の出産 -

平成5年12月に長男を出産。

産後3日目辺りから、目の周りにプツプツと湿疹が出始めていました。

私自身が生まれてすぐにアトピーだったので、母に私が生まれたときと息子の湿疹の出方が同じなのか違うのか確認してみたら、同じように見える。と言いました。

しかし、アトピーと判断するにはまだ早過ぎるので、このときは様子を見るしかできませんでした。

生まれてから、一週間後に退院しましたが、産婦人科の先生から、「目の周りがひどくなるようだったらこれを塗りなさい」と、薬を貰いました。

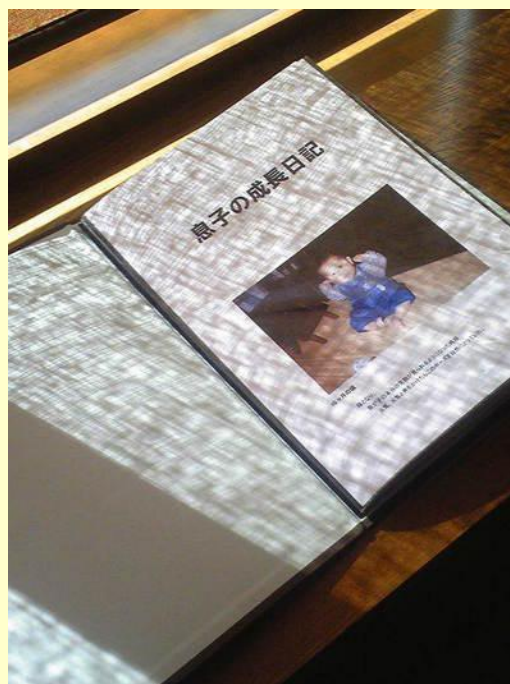
日に日に、目の周りの湿疹が増えていく息子の顔を見ていると、

「これぐらいの湿疹のときにステロイドが入っていない薬を、少しつけることぐらいなら大丈夫」

と、安易な考えを自分に言い聞かせて一度塗ってしまいました。

薬を塗った次の日、息子の目の周りの湿疹が嘘のように消えていました。

普通の人なら薬を塗ってよかった。と一安心するところだと思いますが、私には、この即効性の早さには驚きと恐さを感じるばかりでした。



- 生後1カ月 - アトピー性皮膚炎

生後1ヶ月が経ち、1ヶ月検診に産婦人科へ連れて行きました。

このときにも目の周りに湿疹が出ていたので、薬が怖い。と思いながらも前日には薄っすらと塗ってしまいました。

だから産婦人科に行っても、湿疹については何も言われず健康に育っていると診断されました。

産後を実家で過ごした後、きれいな顔のまま自宅に帰りたかったので、帰る前日にもまた、薬をつけました。

このとき、主人も、主人の両親もきれいな肌の息子を見ているので、まさかこれからあんなにまでひどく悪化していく姿を見ろとは夢にも思わなかったと思います。

自宅に戻って2週間くらい経った頃から、薬の効き目がなくなってきたのか、薬を塗っても目の周りを掻こうとするので手袋をはめました。

その姿を見たときから、主人や主人の両親が「もしかして、この子もアトピーではないのか？」と口に出し始めました。

それからは日に日に息子の顔に赤みが増えていきました。

生後2ヶ月頃から息子を外に連れて出ていると、

「あら、顔に湿疹が出てるのねえ」

「アトピーなの？」

「これは、痒いねえ」

「まあ、可愛そうに」

と、息子の顔を覗き込んで語りかけられるようになりました。

相手に悪気がないのはわかるのですが、語りかけられれば語りかけられるほど気分が滅入っていききました。

特に、私の体質が遺伝しているのですから、なおさら辛かったです。

- 生後3カ月 -

3ヶ月検診の日、額から頭に掛けて、かさぶたが張りつき、帽子を被っているようなひどい状態の息子を小児科へ連れて行きました。

顔からは、ところどころ汁が出てかなりのキズにもなっていました。

身体だけは、赤ちゃんのポチャットした柔らかい肌で湿疹も気になる程ではありませんでした。

検診の結果、「順調に大きくなっていますね」と、成長に問題ないことを言われ安心しましたが、次に、「アトピーがひどいですね」「ここでも薬は出せるけど、別の病院で診てもらったほうがいいですね」と言われることに。

ただ小児科では診てもらえないことになりましたが、取り合えず薬を処方されるより安心感があり言われたことに落ち込むこともなく妙に落ち着いていました。

これまでの私は、一時凌ぎの気休め的に薬をつけていましたが、3カ月検診ではっきりとアトピーと診断された息子には、これ以上薬を塗ることはせず私自身と同じ手当て（リンパマッサージ）を受けさせたいと思い、先生を尋ねることにしました。

しかしこの先生は、アトピーの改善に対して自信を持っておられるだけにとっても厳しい方です。だから、私もこのときばかりは、生半可な気持ちを捨て最後までやり通す信念を持ちました。

訪ねたときの先生の第一声が、

「どうしたの、これは、ひどい」

「頭に帽子被ってきたの」

「これでは、皮膚呼吸できないね。すぐ洗い流してあげようね」

と言われ、頭にこびり付いていたかさぶたを、きれいにしてもらいました。

地肌がようやく出てきて、頭が軽そうに見えましたが、今まで出ていなかった汁が吹き出るように出始めました。

これを見た先生は驚くこともなく、「あーさっぱりしたねえ」と息子に言いながら、

私に一言、

「今日は手当てしたけど、今日より明日、明日より明後日、よくなるまでには日に日に解毒していくから見てるのが可哀相になって途中で自信がなくなるかもわからないから、もう一度家に帰ってから主人と話し合っておいで」

と、案の定言われましたが、

- 治るまで弱音を吐かない
- 先生の言うことを守る

この事を条件に、毎日先生のもとへ通うことになりました。

毎日治療に通い続けても、体内からの毒素が出続ける日々に24時間体制で息子につきっきりの生活になり、落ち着くまで実家から通うことになりました。

そして、このときから24時間息子の痒みが消えることはなくなりました。

睡眠も浅く、寝たと思ってもすぐに起きて愚図り始めました。

起きているときには、極力掻かせたくないので、誰かが抱っこしていました。

だから、家族（両親・兄・私）の食事時間も今までのように、全員が揃ってゆっくり食べるのではなく、常に誰かが息子を抱いて掻かせないようにしてくれていました。



普通の肌の赤ちゃんなら気候のよい時期には外に連れて出て、日向ぼっこもできるのですが、息子の肌には痒みが出て顔からの汁がひどくなるので外出は手当て（リンパマッサージ）に通う道中だけでした。

この頃の私は、道中行き交う人に言葉を交わされたくないのので下を向いて人と目を合わせようとはしませんでした。

それに、道中息子が寝てくれれば落ち着いて行き帰りもできるのですが、途中で必ず痒みが出てきます。私は、何とか掻かないようにするのですが、痒いところに手が届くのです。

「どうしたら、痒みはなくなるのだろう」と思えば思うほど余計に掻きむしりだして、赤い顔が更に真っ赤かになったこともありました。

息子が手当て（リンパマッサージ）をしていたときに、18歳ぐらいの娘さんを連れてお母さんが来られました。にきびがひどく薬をつけたら治るのだけど、ここでは、薬をつけないと聞いて来たことを言われました。

私のときと同様に先生からは、厳しいことを言われていましたが、息子の手当て（リンパマッサージ）を見られ「赤ちゃんでも頑張ってるんだから」と、娘さんにも頑張るようにそのときは、言われていました。

いつも同じ時間に、娘さんと会うようになりましたが、日に日に娘さんの顔のにきびは悪化し始め、解毒による汁が溢れるようになっていました。

その顔のひどさに娘さんが耐えられなくなり、また、娘さんの動揺にお母さんが耐えられなくなりいつの間にか来られなくなりました。

しかし、しばらくしてからきれいになった娘さんを見せに来られました。

そのとき私に、

「悪いことは言わないから、早く薬をつけて汁を止めた方がよいですよ」

「同じ親として言わせてもらうけど、息子さんをそんなひどい顔にすることないですよ」

と言われましたが、私は薬で抑える怖さを知っているから今がひどくても、将来的にきれいになって欲しかったので諦めようとは思いませんでした。

私の家族は、ひどくなる息子を見てもまったく動揺することなく、普通の子供を見るように接してくれていましたので、とても支えられました。

今でも時々、その娘さんはどうなられたのかと考えると、どんな治療法を選択しても、本人が治すという強い信念を持ち、挫けそうになったときにこそ支えてくれる家族が強くないと、どこかで挫折してしまうことがこのときにわかりました。

- 生後7カ月 -

生後3ヶ月の頃から、息子の頭から汗が出始めベタベタしていましたが、生後7ヶ月頃になると、ようやく地肌が表れ見た目にもカラッとした感じにまで回復し、鼻や口の周りからも赤みが消え白い地肌が出てきました。

- 生後8カ月 -

生後8ヶ月頃には、地肌の間から大きな硬くて赤い芯が出始め、触ったらデコボコしていました。

ただ、以前のように全体から汗が吹き出しているのとは違いました。

頭がただれていたときには、耳の外側も、内側もかなり切れて汗が固まるほどでした。耳自体が、切れるのではないかと心配になるほどの切れ方でした。

しかし、頭のただれた部分が落ち着くと、切れていた耳も落ち着き急に汗が止まり、頭も耳も地肌が出て普通のきれいな肌になりました。

これに続いて、顔から出ていた汗も落ち着き、鼻と口の周りからも地肌が出始め、さらには、額・頬からも、地肌が出てきました。

- 生後9カ月 - 中国帝神病院へ

生後9ヶ月頃には、痒いところに手をやらなくなったので芯が潰れて汗が出るといったことが、少なくなり、頭・顔・耳・身体すべての部分からの汗も止まり、人目にも掻き傷程度にまで落ちついてきました。

この時期、先生の方から、「体質改善のために中国の帝神病院に行かないか？」と言われました。

ここでは、人間ドックに入って、問診から始まり、体質を調べてもらい漢方を処方してもらうことになります。このまま時を待ち、きれいな肌になるまで過ごすことも可能だったのですが、私たち家族は、一日も早く息子のきれいな肌を取り戻したい一心で行くことを決断しました。

初日の治療ではまず問診をされました。

家族構成・環境・私達両親の体質・遺伝的要素を含め、色々な項目を時間をかけて聞かれたことにはとても驚きました。

なぜならば、私が高校生の頃、アトピー治療に通っていた先生に息子を診てもらったことが一度だけあります。先生は問診よりもアトピーのひどさばかりを強調されただけで、すぐに薬を処方されました。

しかし、私はこの病院で薬を2年間処方してもらっていたのですから、この時程複雑な悲しい気持ちはなかったです。

随分と時が経っていたので先生が、私のことを忘れてるのは仕方のないことですが、それでも心の中では「先生が私を治療しても、治せなかったアトピーですよ？」と叫びたいほどやりきれない心境でした。

中国での問診に、「本当にここまで体質改善に来てよかった」と心から思いました。

次の日には、耳に針を刺し、ツボを刺激してもらい、舌診をされました。

- 疲れがたまると、舌に出ること
- 疲れがでたときの舌は、腫れぼったくて、歯型のようなものがついていること
- 身体の、どの器官が弱っているのか？
- アレルギーの原因は何なのか？

丁寧に説明されました。

初めての診察内容に、ただただ驚きました。

問診の先生、舌を診られる先生、耳を診て針を刺される先生。

ひと部屋ずつそれぞれの分野の先生がおられ、ゆっくりと問診しながら治療をされ、時間をかけて診てもらいました。

9ヶ月の息子も大人とまったく同じ治療法ですが、愚図ることなく治療をしてもらいました。

滞在3日目には、私の隣に息子を一人で座らせて食事ができるほどまで回復したのには、驚きと嬉しさで一杯でした。

治療では、食についての講義も受けました。

「一人一人、顔・性格・体質が異なるように、アトピーの子はこの食品を食べてはいけないと言うのではなく、息子さんを問診した上で、この食品は食べない方がよい、というもの」

「それも、痒みが出なくなるまでで、体質改善がきちんとできてアトピーが治るまでの間ですよ」

と、わかりやすく息子の現在の体質と、食べられるもの、食べられないものを教えて貰いました。

講義中、始めて息子と別々だったのですが、息子1人がおもちゃで遊んでいたのには驚かされました。通常9ヶ月の子供なら、普通のことなのですが、息子の場合は一人遊びをさせるとポリポリと掻きむしるので一人遊びをさせないようにしていたので、その普通の姿が私にはただ、嬉しくて、嬉しくて…。

しかし、体質改善のために中国の病院まで治療に来たお陰で、顔や身体からの汁が止まり、掻かずに一人遊びまで出来るようになったことを喜んだのも束の間。

滞在5日目ぐらいから再び、頬っぺたが赤くなり、汁がポタポタと出始めました。

「何でまた？」

「このままきれいにならないの？」

と、思っていました、

先生からは、

「身体の悪いものが針治療・薬膳料理・漢方薬によって出たのですよ。全部出してしまわないと同じことだから、大丈夫、今まであれだけひどい解毒に耐えられたのだから、息子さんのきれいな肌を信じて頑張って」

と、言われました。

今までの辛さとは違って少しでもきれいな肌を見ていたので、また必ずきれいな肌になると信じて頑張ることにしました。

日本に帰り再び、手当て（リンパマッサージ）を始め、2週間程経った頃、頭の掻きむしり傷がなくなり、大きな湿疹の中から芯が出始め、かさぶたができ、ポロッと取れた場所の肌からは、日に日にきれいな地肌が出てきて真っ白い、すべすべとした肌が出始めました。

顔は、中国に行く前から地肌がみえていたのですが、日本に帰ってから再び、頬が真っ赤になって汁が出始めましたがすぐにまた、落ち着き地肌が出てきました。

- 生後 10 カ月 -

生後 10 ヶ月頃には、汁が出続けていた肌からは、再生されたきれいな肌が見えてきました。

それでもまだ、赤ちゃん特有のもちもちした柔らかさはありませんでしたが、私にはとてもきれいな肌に見えました。

息子が生まれてからの 10 ヶ月間、私は本当の息子の顔や姿を知りませんでした。

顔から出続ける汁、アトピー独特のにおいがする息子。

泣く・ぐずる・掻きむしる姿の息子。

一度も笑顔を見せたことのない息子。

しかし、

息子ってこんな顔をしていたこと。

息子ってこんな笑顔をしていたこと。

息子ってこんなに肌がプルプルとしていたこと。

息子ってこんなに色白だったこと。

たくさんのこと発見しました。

とても苦しくて辛い 10 ヶ月間でしたが、色々な人との出会いがあり、支えてもらいました。

私一人では、とても乗り切ることはできませんでした。

完治してからの息子は、今までの笑顔を取り戻すかのように私達家族を楽しませてくれ、ようやく落ち着いた家庭生活に入りました。

しかし、、、

- 2歳6ヶ月 - 喘息

息子が2歳6ヶ月頃のことです。

少し咳が出始めたので、風邪を引いたのだと思っていましたが、咳の後から、「ヒュー・ゼエゼエ」と、音が聞こえてきました。

しばらく様子を見てみると苦しそうなので、病院に連れて行くと「気管支炎です」、と言われました。

この日から息子は、気管支炎から小児喘息と言われるまでひどくなりました。

この頃の私は、アトピーのことは経験から理解していたのですが、気管支炎・喘息については、まったく理解できていませんでした。

風邪を引いたり、朝晩の気温の変化・季節の変わり目になると気管支炎を併発するようになりました。

病院に行っては、ステロイド剤を吸入してもらい、飲み薬が効いている少しの時間だけ、苦しさから逃れることができるのですが、すぐに効き目が切れるので「本当にこれでよいのか」正直迷いました。

息子のアトピーは私からの遺伝ですが、病院の先生からこの喘息は主人からの遺伝だと言われました。と言うのも主人は幼少の頃から小児喘息で病院通いをし、子ども心に「いつ息が止まるんだろう」と、思っていたくらいの経験があったからです。

- 3歳～小学生、中学生 -

3歳頃からは、気候のよい時期に外に遊びに連れて行くと夜には、『ゼエ・ゼエ・ヒューヒュー』と、喘鳴が出始めました。

急いでかかりつけの病院で吸入をすると落ち着き、明け方近くになると、『ゼエ・ゼエ・ヒューヒュー』と、出始めました。

はじめは、吸入も一度やればすぐに落ち着きましたが、続けているうちには落ち着いたと思って安心した途端すぐに『ゼエ・ゼエ・ヒューヒュー』と、息が止まらないかと思うほどのひどさになりました。

この時期からは、一度の吸入では治まらなくなり、入院をして点滴治療を受け、度々点滴をするようになっていきました。

幼稚園に通い出してからも、気管支炎が落ち着くことはなく、園での生活でも気をつけてもらっていましたが、なかなかよくなるので空気のよい所に引っ越しをしました。

環境の変化で、よくなるのか、さらに悪化するのか、わかりませんでした。ひとまず環境を変えることを選んだ結果、入院するほどひどい発作は起こさなくなりました。

しかし、吸入には度々連れて行き、薬も外せなくなっていました。

それからしばらくしてまた、喘息の発作が出たので、吸入に連れて行き、薬を飲ませましたが、薬を飲んでいるときには、痒みが出て掻くことはなかったのに、喘息が治まり始めた途端、手や足の関節部分を掻いている姿を時々見るがありました。

私自身、息子が病院で「喘息ですね」と診断されたときから、アトピーのときほどステロイド剤を拒否することはできなく、むしろ、喘息治療には、ステロイド剤入りの薬を使うことの方が当たり前になっていた時期でした。

ただ、喘息の薬を飲んでいるときにはきれいな肌なのに、喘息が治まった後から次第に痒がる姿を見ていると、

「折角、アトピーが治ったのにどうなるのだろう」

と、色々な疑問が出始めましたが、それでも私は、アトピーのときのように、ステロイド剤を使わないことはできませんでした。

しかし、息子が小児喘息の治療で、ステロイド剤入りの点滴・吸入・薬を使い始めて3年の月日が経った頃、喘息治療に不安や疑問を感じ始めました。

そのとき、アトピーの手当て（リンパマッサージ）をして頂いた先生から以前、喘息の人にも手当て（リンパマッサージ）をしたことがある。と言われていたことを思い出し、3年ぶりに息子を連れていくことにしました。

基本的に先生は、喘息治療をやられている訳ではないので「喘息は、息をするのが苦しくなるのだから薬を使わないことがよいとは言えない」と教えられ、それよりも喘息が出たときに呼吸が少しでも楽にできるマッサージを教えてくださいました。

丁度、喘息の症状が出ていたときなので、先生にマッサージをしてもらうと気道が開いて息子も楽に息ができるようになりましたが、あくまでも薬を飲ませながらのマッサージでした。

息子も幼稚園から小学生へと成長していくに連れて、発症する率が少なくなってきました。

喘息は、抵抗力がついてくると次第に発症しなくなることを、周りからも聞かされていた通り、小学校の高学年になると更に発症する回数が減りました。

その代わりに、アレルギー性鼻炎を発症し、度々耳鼻科通いとなりました。

このときも、ステロイド吸入・ステロイド点鼻薬を使用しました。

その後、中学生から現在に至るまで（18歳）喘息の発症はしておりません。また、中学生以後は、アレルギー性鼻炎でも耳鼻科に行くほどの悪化はしておりません。

これまでの喘息を振り返ると、治療中の私自身の判断を誤りそうになったことが一度だけあります。

喘息が落ち着くと痒みが発症することがわかった頃に、喘息の発作が起きました。今までならすぐに病院に連れて行ったのにも関わらず、また痒みがでたら可哀想だと勝手に思い込み病院に連れて行くのを迷っていました。

すると、普段我慢強い息子が「息が苦しい」と訴えているのに「大丈夫よ」と、苦しがる息子に気休めを言いながら、私の心の中には病院に行ったら、また後で痒みが出てしまうことの方が可哀想だからと、そのときの私は自分勝手に思い込んでいました。

それでも、あまりにも苦しがるので、アトピーを手当てしてもらった先生に電話を入れて状態を話したところ、

「それでもあなたは親なの？そんなに苦しんでいるのなら先に吸入して落ち着かせるのが先でしょう。痒みのリバウンドは喘息の発作が落ち着いた後に考えればいいことでしょう。息が止まったらどうするの、早く病院に行きなさい」

と言われ、すぐに連れて行き、何事もなく発作は落ち着きました。

今でも、あの時言われた言葉は心に留めています。

そのとき、そのときの子供の状態を正しく見極めて判断しないと危険なことになること。

このときに先生から厳しく教えてもらいました。

考えてみると、喘息の発作を出さないようにしたくて、返って口出しすることも多くありました。

息子にとっては、反発もできずストレスに感じていた時期もあったと思います。

喘息も外因的・内因的要素の両面から考える必要性もあると私は思います。

しかし、喘息の発作が落ち着くとまた、足の関節部分に湿疹が出始めました。後にまた、私が恐れていた通りの痒みが発症し悪化していきました。

- 15 歳～17 歳 -

15 歳から 16 歳になるまでの半年間に首と手・足の関節部分に痒みが発症。

この頃は、思春期にも入り手当て（リンパマッサージ）を息子自身も拒否していた時期なので落ち着くまでには時間がかかりました。

また、この痒みが落ち着くとアレルギー性鼻炎の発症が起きました。

アレルギー性鼻炎を発症するとまた、痒みは落ち着きました。

いつも、その繰り返しでした。

- 18 歳 -

18 歳の現在、高校を卒業したと同時に顔・首・手・足の関節部分に痒みとともに汁が出始めました。（顔は、18 年ぶりの症状でした。）

しかし、親子でも湿疹の出方は異なり、息子は手に出たことがなくとてもスベスベとしたきれいな手と指をしています。

そして、大人になった今、息子には周りが語り伝えてきたアトピーの現実、証拠の写真だけで赤ちゃんのときにしてもらった手当て（リンパマッサージ）の効力は覚えていません。

親としては、自分の技術（先生の技術を私自身現在は取得しています。）をしてあげたいと願っても、本人のやる気がなければよい結果には繋がらないので敢えて私手を出しません。

見守る意味で、痒がる息子の姿をしばらくの間、黙認もしていました。

しかし、

ようやく本人が自分の代で痒みを経ち切りたい。

と願い強い意思と信念を持ったので、手当て（リンパマッサージ）を始めました。

赤ちゃんのときなら、母親の私が乗り切ればよかったのですが、今回は息子自身が自分で乗り切らなくてはならないことに、改善提案をする側の私と母親として見守る側の私がいきました。

母親として、見守る側に自分が立たされたとき、アトピーの私をいつも傍で支え続けてくれた母の強さ、そして、優しさを改めて感じました。

今回も、母が全面的に協力してくれ、手当てのサポートと息子と私の心のサポートの両面を根気よく支えてくれたことで、手当て(リンパマッサージ)を始めて2ヶ月後、

18年ぶりに発症した顔は、元の肌へと戻ることができました。

ここまでなるには、夜中の止まることのない痒みにも耐え、自分の姿に気分が滅入ることにも耐える努力を相当していたのが手にとるように伝わってきました。

3ヶ月目、首・肩から手のくるぶしまでのただれた状態と、足の関節部分からの汁も止まり、見た目にも乾燥肌程度まで落ち着きました。

これまでに息子は、アトピー・喘息・鼻炎と様々なアレルギーの発症を幾度となく繰り返してきました。

発症した時期を振り返り考えますと、成長していく過程の中では色々なことがあったと思います。その中で、起きた現象によっては精神的疲れであったり・精神的プレッシャーを感じていたり・体力的に疲れが溜まっていたり、何らかの影響が出ていたことも考えられます。

しかし、息子はストレスを自分では感じていません。

ところが、身体の方は感じていたと考えられます。

これを機に日常に使用する商品にも自分自身で目を向けるようになりました。

アレルギー体質でも使用できる製品。

それも、自分自身に合うものを選ぶ。

自分自身がアトピー体質ということを受け止め、それに立ち向かう強い気持ちを持ち続け、体の声を聞きながら日々の生活を送って欲しいと願います。

これからも一喜一憂することもあるかと思いますが、よくなったことも、悪くなったことも、まとめて伝えていければ考えております。